

歩み 半世紀の

市制施行50年

reorganize as a city since 1th Nov.1971

私たちのまち「多賀城」が「多賀城市」になってから50年を迎えます。この間に、多賀城市はどんな変化を遂げ歴史を築いてきたのでしょうか。半世紀の歩みを振り返ります。

回顧 / #01

多賀城市市制施行の日



1971 (昭和46)年11月1日 市制施行を記念してパレードが行われました。

宮城県内で9番目の市が誕生

多賀城町は、1971 (昭和46)年11月1日に「多賀城市」として新たなスタートを切りました。地方自治法の改正により人口3万人での市制適用が可能になり、前年の7月に市制促進協議会を組織し、準備を重ね住民待望の市制施行でした。

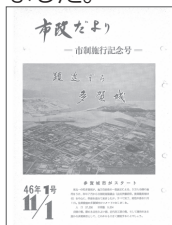
歴史をさかのぼると、多賀城は1887(明治20)年に村制を敷き、1951(昭和26)年に町制を施行しました。町制から20年で市制に移行したことになります。

大場源七市長(当時)は、市制施行記念式典の式辞で、「(市制施行の)資格を具備しているだろうか。これとて見るべきものはなく、また誇るべきものもありませんが、ただ一つ日本三大史跡として自他共に誇り得る1200余年前の奈良朝文化の遺跡を有することであります」と述べています。

史跡のまち、緑のある住みよいまち、近代的工業のまち、そして調和のある豊かなまちとし

て大きく躍進することが期待された多賀城市。市制施行時人口37,356人、世帯数9,554世帯だったまちは、50年の歳月を経て人口62,285人、世帯数27,439世帯(2月末現在)と大きく成長し、発展してきました。

開庁式当日は、多賀城小学校鼓笛隊、バトンガール、多賀城中学校プラスバンド部などが市役所から出発して市内をパレード。56台の車の列も後に続きました。その後、市木・山茶花の記念植樹や記念式典が行われ、多賀城の新たな歩みが始まりました。



市政だより 市制施行記念号
1971(昭和46)年11月1日発行。B5版12ページで構成。巻頭に、市庁舎の外観写真、多賀城市誕生を宣言する市長のコメント、市議会議長のお祝いの声が掲載されています。また市民から公募した市民歌、新多賀城音頭、市木、論文等の審査結果も紹介。市制誕生の喜びが伝わってきます。